

今年も夏がやってきた。昨年は記録的な猛暑となり、未曾有の被害を出した西日本豪雨もあった。そこで、一足早く5月21日に大阪産業創造館（大阪府中央区）で開催された見本市「猛暑・夏の災害対策製品展2019」を訪問。猛暑や災害を乗り切るための最新アイテムをレポートする。

## 夏の災害 最新の備えを

### 人もペットも涼しく

もっとも目を引いたキャッチコピーは、生活用品や美容関連商品などの開発を行う「ルック」（大阪府大東市）の「帽子が凍るスプレー」だ。帽子の縁に水を垂らし、スプレーを吹き付けると、確かに帽子の縁が凍った。

冷却スプレーはもともと、吹き付けるガスの気化熱で冷やす仕組みだが、ノズルに工夫があり、マイナス10度くらいに温度を下げるができるのだという。同社では「タオルや布を凍らせて、額や首などに使ってみては」と提案している。

暑さが大敵なのは屋外で働く人たち。最近ではファンのついた作業着のジャケットを目にするものも多いが、建設資材の卸売りなどを行う「宮崎実業」（宮崎市）が展示していた「エアコンジャケット」は、「これまでのものとは違う、本格エアコン空調服です」（同社）。

担当者によると、ファンを通じて外気を取り込む従来型と異なり、エアコンジャケットは冷気を送り込むとともに気化熱で作業着



「室内で飼育するペットの暑さ対策に」とPRしていた「冷やしわんこ」

内の温度を下げ、服の中を28度に保つことができるという。

一方、防火・防護服を製造・販売する「倉本産業」（東京都豊島区）が展示していた「クールボディスーツ」は、ベストに11個、ズボンに10個と大量の保冷剤を収納できる。すでに関西の消防局で導入されているという。

このほか精密機器製造の「MR T」（大阪府八尾市）は、「暑いのはペットだって同じ」と「冷やしわんこ」という製品を出展。アルミ板を冷却し、ペットがそこに寝そべてひんやりできるというもので、「もともと植物の実験機器などを作っていて、生育環境を整える技術やノウハウを使いました」（同社）とハイテクだ。

### ポキッと曲げて点灯

今回の製品展では、夏の災害対策として発想豊かな製品も紹介さ

④ 布湿らせた帽子の縁に冷却スプレーを吹きつけると、瞬時に氷ができあがった。⑤ 市販のクーラーと同様に冷気を作り、作業着内を涼しくするという「エアコンジャケット」



ポキッと折れば発光する特性を利用し、停電時の活用などを提案する「ルミカライト」＝いずれも5月21日午前、大阪府中央区の大阪産業創造館

れていた。

「電気や火を使わないので二次災害の恐れがない。懐中電灯よりコストも安い」。こう話すのは災害備蓄用のケミカルライト「ルミカライト」を出展していた「ルミカ」（福岡県古賀市）の担当者だ。コンサート会場などでよく見る、長い棒をポキッと軽く折り曲げると発光するあれを停電時の明かりとして活用するもので、10～12時間程度は明かりが持続するという。

自然災害に襲われると、水道が満足に使えなくなり、入浴できなくなることもある。こうしたときに役に立ちそうなのが、「本田洋行」（愛媛県四国中央市）の「手袋シャンプー」「手袋からだふき」。その名の通り、ウェットタオルを手袋のようにはめて、使うものだ。「もともとはお年寄りの体に使う介護向けに作りましたが、災害時の備蓄品としても使えます」（担当者）。

猛暑や災害は毎年のようにやってくる。こうした製品を備えの参考にされてはいかがだろうか。

# 猛暑乗り切る逸品アイテム